

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月18日（金）午後7時30分～9時05分
場 所 阪谷小学校 体育館
出席者 阪谷小学校区児童未就学児保護者 8名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 阪谷保育園はどうなるか。

市教委 今現在、阪谷保育園を無くすということは考えていない。民間も含め保育園をどうするかについては、子ども子育て支援事業計画を作り計画的に進めることになっている。令和2年度から5年間の計画で、令和6年度までの計画である。次の計画を見直す時は阪谷保育園を含め全体的に検討することになると思う。

参加者 8ページの登下校の負担軽減について、通学距離が概ね片道4km以上の児童にスクールバスをとなっているが、片道4kmに満たない地区に住んでいる場合は徒歩の通学ということか。

市教委 この通学距離は、基本的に小学校が4km、中学校が6km以内の通学距離に学校があるようにという文部科学省が示している目安である。それ以上の距離であればスクールバスなどを運行してということではあるが、あくまでこれは一つの目安である。8ページの下に書いてある再編準備委員会で、実際にどういったスクールバスの運行をするかということ、保護者からの御意見や御要望を十分にお聞きしながら決める。全員がスクールバスに乗るということもあるかも知れない。準備委員会の中で協議をさせていただき、ルートなども含めて検討したい。きっちり4km、6kmで線を引くということとは考えていない。

参加者 統合先の学用品を購入する補助について、阪谷小学校から富田小学校に行って、富田小学校で今使っている物をそのまま使うというわけではなく、これも準備委員会で、体操服や内履きなど、どのような物を使っていくかということを検討するということか。

市教委 以前のここでの説明会でも申し上げたが、例えば、阪谷小学校も富田小学校も今ナップランドを使っているが、阪谷小学校の色は4色から自由に選べ、富田小学校は黄色という指定がある。そこをきちんと黄色にそろえ

ないといけないのか、という部分がある。昔は男の子は黒、女の子は赤だったということもあったが、今はランドセルの色も自由になっている。そういったところで、果たしてそろえる必要があるのかと。実際に、乾側小学校と下庄小学校の再編の時に、話し合いの中では、例えば乾側小学校の体操服をそのまま下庄小学校で着ていても何も問題ないという協議ではあったが、実際問題として子どもたちが違う体操服を着ていると、やっぱりちょっと寂しいとか、違和感があるということで、現在は同じ体操服を着ているようである。そういったことも、我々教育委員会の者も一緒に入って準備委員会の中で協議させてもらいたい。

参加者

現状では、阪谷小学校に行くまでの阪谷地区内の主要な通学路はほとんど歩道があるが、富田小学校に通うまでの歩道は、例えば伏石から降りていく道が松丸までで歩道が切れていて、九頭竜川を渡る時は、歩く側の橋を渡る時、一旦、見通しが悪く曲がった細い道を横断する危険箇所もある。不動堂から花房に降りて行く時も歩道が整備されていないという状況だ。徒歩通学になるのであれば、歩道の整備や冬場の除雪の徹底など、安全対策はどうか。もしくは、阪谷地区全域にスクールバスを運行する方向で進めていただけるとありがたい。冬場の松丸の下りは、森本の融雪が川みたいになって歩ける状況ではない。私自身も、中学校時代車に水をかけられたということがあったので、そういった配慮をしてもらえたらよい。保育園への要望として、学年が上がるにつれてコミュニティが大きくなっていくというのが理想的という話があったが、小学校、中学校はより人数の多いところに進んでいくなれば、保育園は今後できれば地区に残していただけるとありがたい。

市教委

スクールバスについて、一様に皆、登下校の問題は大きいと感じている。慎重に進めたい。阪谷小学校に通う、六呂師や松丸から来る尚徳スクールバスの後ろに付いていたり、乗ったりした。ここだけではなく、富田小学校に通っている土布子から来るバス、下唯野から来るバスにも乗ったし、勝原の方から4人の子が乗って来るタクシーの後ろも車で付いていった。和泉地区では、2路線ある。地図や頭の中だけで計算するようなことはしない。どういう環境でどういう子たちがどういう形で通学して帰るのか、自分でちゃんと体感して、この再編計画を作って皆さんと話をしに来ている。一番分かっているのは皆さんなので、十分相談をさせていただきたいと思う。私自身、冬の間は開成中学校にはスクールバスで通った。50年前の小山小学校の時に、分校から本校に行った。小山中学校の時に開成中学校ができ、中3から開成中学校に行った。そういう渦中にいた人間でもあるので、当時の思いをしっかりと腹において進めていきたい。保育園につ

いては、子どもの成長は、家庭から始まり、小さいコミュニティーからだんだん大きくなっていくということ。小学校と中学校についても求められる使命や役割、ミッションが違う。中学校であれば、より広い世界で頑張りたい。小学校は基本的には地域でと思っている。しかし、人数が徐々に減っていくと、いつまでも地域でよいのか、どこかで接点を大人がつけてやらなければならない。そういう意味で、阪谷の子たちにどういった環境がよいのかという議論になってくる。保育園の場合には、しっかり抱いて肌を離さず、という時期だ。小学校は肌を離して手を離さず、中学校になると手を離して目を離さずという時期になる。子どもたちの成長をしっかり踏まえて、適切な環境を整備していかないといけないという思いでいる。丁寧に進めていきたい。

参加者 校歌は学校ごとに定めるといふ決まりがあるのか。人口減少を見ていくと、再編は随時出てくる問題だと思う。再編に合わせて校歌を作り直すかどうかという問題も出てくるのか。例えば市全体の共通の校歌、中学校全体の校歌を作るということもあるか。

市教委 第1回目の再編についてはできたらそのまま、校章も校歌もそのまま使いたい。阪谷でいうと、富田小学校のものをということだ。今後の第2次再編については、そういうことも含めて検討され、新たな検討委員会の中で意見を交換することになると思う。

参加者 中学校の再編が2年後で、小学校がもっと先ということだが、逆にはならないか。小学校を先に統合して、中学校を後にということはないか。

市教委 教育委員会としても、意見交換会の中でも、中学校の教科教員がそろわないということや、二次的な問題になるが、部活動が選べないということが非常に大きい問題であるので、それをまず解消したいというのが第一だった。もちろん、小学校も複式になっているのでなるべく早めに再編したいとは思いますが、小学校と中学校どちらかということ、中学校を先にと考えている。一挙にということもできなくはないが、丁寧に進めるためにも、2回に分けることが必要だと思っている。

参加者 今、2人や3人の学年で、いきなり中学校で100何人の学年の中に入ることになり、親も心配だし、子どもも心配ではないかと思う。

市教委 中1で急に大きい学校となると心配だろう。以前の説明会で出た話だが、中学校で急に大きい学校というのは心配だから、小学校5、6年生の間に、中学校で一緒になる小学校の子たちとの交流をできないかという話もあった。そういう発想は教育委員会では無かったので、聞かせてもらって良かったと思っている。私の娘が小山小学校から開成に行った時は、小山小が10数人の学年であったのが開成中学校という大きい学校に行くため、親

としては心配したが、子どもはそれほど心配していなく、たくましかった。娘に様子を聞くと、楽だと言っていた。小山小学校が小さかったから悪いという意味ではない。自分の性格と合う子たちと一緒にいられるとか、好きな部活に入れるという意味で楽だと言っていた。私が中学校の教員をしていた時は、小さい学校から入ってくる子たちには特に気を配り、声を掛けたが、楽だという返答もあり、友達ができないとう返答もあった。心配はしないといけませんが、心配をしすぎることもあまりしないほうがよいと思う。それでも心配になると思うので、小学校の間に事前に交流をすることもとても大切だと思う。

参加者 どれくらいの頻度ですか。

市教委 乾側小学校では、急な再編であったが、今回は、再編計画の案が取れて早く準備委員会を設置すると交流の期間も長くとれる。2年間、それ以上取れる可能性がある。乾側小学校は1年間の準備期間であったが全部で6回行った。最初は、急に長い時間は大変なので2時間程の交流で、その後給食を一緒に食べたり、全校での動きの中に入っていったりといった交流をした。陽明中学校というと生徒数が多く感じるが、まずは学級からだと思う。実際に、乾側小学校の児童が下庄小学校に行っているが、3人で1クラスだった子が20数人のクラスに入る時に、下庄小学校は2クラスあり、3人が別々のクラスになるのかどうかは、十分に配慮させていただいた。陽明中学校も20数人の学級が4、5クラスという状況で、そこに3人入っていくので、全体の数は多く感じるが、学級単位でさまざまな授業をするのが基本になるので、思うほど心配はいらない。乾側小学校の子どもたちが下庄小学校に入って学習する様子も見てきたが、あまり心配はいらないかと思う。小学校の場合には、低学年の子ほどよく慣れている感じもある。中学校1年生で再編ということになると、陽明中学校も複数の小学校、今だと下庄小学校、有終東小学校、有終西小学校から来ているから、皆がそれぞれの思いを持ちながら新しい友達を作ろうという感じがあり、そういう意味で大きく羽ばたいていけることも期待したい。

参加者 数だけで単純なことを言うてはダメなのかも知れないが、尚徳中学校では専門教科の免許を持った先生は今現在配置されていないという状況だが、陽明中学校などは配置されているので、行く学校で平等な教育を受けられている感じがしない。例えば、数だけでいくと、上庄中学校と尚徳中学校と和泉中学校を足すと陽明中学校より人数は少ないが、3校に1名の先生を置いて、3校を受け持つということができないか。

市教委 計算上は可能ではないかと思うかも知れないが、結論から言うとできないことはないが、時間割や移動時間の問題でかなり難しい。上庄中学校と

尚徳中学校を兼務させ、2校で1人の音楽教員を置いて行ったり来たりして授業することをした経験は過去にある。ただ、今申し上げたような理由でうまくいかなかった。実際に福井市の小規模校にいた時に私自身も教えたことがあるが、国語の教員が美術を教えるなどの対応を取っている。そういう時は、県の教育委員会に申請を出して、承認を受けて行く。ただ、無免許でやっているのではない。御理解いただけるとありがたい。

参加者 空き校舎の活用とあるが、地区で空き校舎を活用となった時、空き校舎を活用していく間の維持管理の費用、将来的な取り壊しの費用は地区の負担になるのか。

市教委 尚徳中学校は築60年近くなり老朽化しているため、建物自体が持たなくなるので壊していくことになるが、その費用は市の持ち物であるから市が出す。地区に御迷惑をかけることはない。皆さんの御理解をいただき、阪谷の小学生が富田小学校に行くことになり、校舎がまだ使えるとなった時、地区の皆さんがどう使っていくか、どういうあり方をするかが決まったら、民間が買うということであれば別だが、市が管理する建物であるので維持管理や補修は市がする。地区の人にお金を出してくださいということにはまずならない。大野市の身の丈以上のことは難しいので、使い方も十分話し合いの中で決めていくことになる。まずは地区の皆さんに決めていただいて市と話し合う。市がこうしたいのでお願いしますという時代ではない。話し合いをしながら進めていきたいと思っている。

参加者 学用品の補助は決定なのか。変わることはないか。

市教委 過去の再編の時にはこのような補助をしたという例を示している。昨年の乾側小学校、富田小学校に統合された森目小学校、蕨生小学校の三つの学校の統合に関しては、この内容で保護者の負担軽減ということで学用品の補助をさせていただいた。基本的にはこのままで進めさせていただきたいと思っている。

参加者 2年生と6年生の10分の10や3年生から5年生の10分の5も何となく分かるが、なぜ半分なのかと思う。

市教委 2年生から統合すると、前の学校の学用品を1年しか使わない、6年生は新しい学校の学用品を1年しか使わないということで、全額補助している。3年生、4年生、5年生については、少なくとも2年以上は新しい学校のものを使うということで2分の1の補助となっている。そこで差をつけている。

参加者 差をつけないと、保護者から何でということがあるのか。絶対に変えないとダメではなかったはず。

市教委 補助するなら10分の10の方がありがたいということだろうか。

参加者 それはそうだが。

市教委 最後におっしゃたように、どうしても変えなければいけないのかということも考えれば良いと思う。あくまでも学校対学校のことであるから、小さい所が大きい所にどうしても合わせなければいけないのかというと、そうではないと思う。ナップランドでもそうだが、阪谷小学校で自分が選んでこれがいいと思って背負ってきたランドセルはそのまま使えばいいと思う。富田小学校は黄色かも知れないが、今はいろいろな色があるので、向こうの考え方もすり合わせていく必要があると思う。阪谷小学校の体操服を小さくなるまで着て、体が大きくなって買い換えないといけない時に富田小学校の体操服に切り替えるというようにしていけば、令和8年ぴったりに変わらなくても、いろいろ色が混じっている時期があっていいのではないかと思う。4年生、5年生で富田に行って、そのまま元の体操服を着て、そのまま卒業すればいいということもある。そしてそれぞれの違いを認め合える学校であって欲しいと思う。無秩序にやっていいという意味ではない。尊重し合える学校であってほしいと思う。全て変えないといけないかということそうではない。補助の比率にしても、これまではこうだったということで、乾側でもそう進めたが、いろんな意見を聞きながら進めたい。これまでこうだったからどうしても同様に進めなければいけないということではない。十分に相談をさせていただきたい。

参加者 この地区に来たばかりであまり分からないが、学校が終わった後に行く児童センターはあるのか。仕事が終わった後にそこに迎えに行くということとはできないか。放課後、公園に行つてどこかでさらわれてしまったらどうしようとか考えてしまう。そういう施設があったらと思っている。

市教委 法律や国の制度の違いがあるが、市街地には家に帰っても誰もいない子のために児童館がある。和泉地区にも一つあり、市内全部で五つある。ここは保育に欠ける子を預ける施設で「放課後児童クラブ」という。上庄地区、富田地区、阪谷地区には無いため、公民館が中心となった「放課後子ども教室」を運営している。中身は放課後児童クラブと同じである。管轄が文科省なのか厚生労働省なのかという程度の違いだ。特に阪谷は、地区や保護者の御協力を得て、公民館を中心に夜6時まで預かりをしている。地区の方をお願いをして、安全管理員さんを置いてやっている。

富田小学校へ行くととなると、ちゃんと帰りはここまで送ってくる。乾側小学校の例を挙げると、朝、下庄小学校にバスで通い、帰りは、低学年の場合はちょっと早く、高学年の場合は4時と遅い便の2便バスを出して、公民館で預かり、放課後子ども教室をしている。阪谷の場合も、今、阪谷小学校が終わったら放課後子ども教室に行くのと同じように、富田小学校が

ら、ちゃんとバスで阪谷に送るということを丁寧にさせてもらいたいと考えている。

参加者 今、阪谷地区では夏休みになるとシルバーさんが1時間100円で見えてくれる。富田小学校の児童は自分の好きな場所の児童館へ分かれて行っている。もし、阪谷小学校と富田小学校が統合されるとなると、富田のようなことを市でやってもらえるのか。

市教委 児童館は、主に家に誰もいない子が活用するが、富田の児童は、どこの子でも登録さえしておけばそこに行って一緒に遊べるという「自由来館」という制度を活用しているのだと思う。そこは、さまざまな家庭の事情や、コロナにも配慮した児童館のキャパシティーに合わせ、家庭の中で選択していただければいいと思う。いろんな課題を一括して解決するために、4月からは、保育園や児童館も全部教育委員会で預かるようになったので、いろいろ御意見をお聞きした上で、改善策があれば改善していく。冒頭に子育てパッケージのパンフをお見せしたが、問い合わせがあれば電話でお尋ねいただくと、いい解決策があるかも知れない。御意見はちゃんと吸い上げたい。

参加者 人数が減り、再編して人数のある学校で勉強するメリットは分かったが、児童や生徒の減少のグラフを見ると、ずっと減少していき、ゼロになることはないと思うが、最終的には再編を重ね、市内で1校になっていく未来になってしまうのかと思う。教育に関しては、国の決まりが元で、なかなか市単位で思い切ったことは難しいと思うが、将来的に、少人数の単位で勉強していくような方向に転換していく可能性はあるか。

市教委 数だけ見るとどんどん小さくなり、中学校の場合だと、今2校だが、もっとずっと行くと、人数的には1校になることがあるのではないかといいことであろう。大野は、人数だけでこの再編を考えてないというのがまず第1だ。子どもにとってどういう環境が望ましいのかということで、再編計画案を見ても、数や時期はずっと後の方で出てくる。最初に大野はどういう教育を目指すか、基本的にはこういう考えを元に再編を進めるといいうことを、皆さんともお話ししたことを土台に考えている。結論とすると、この段階的な再編を考える中で、1回やって収めて、様子をちゃんと見て、そして10年15年の後に中学校を大野市として1校にするのか、2校で行くのか、それも、1校で新築するのか、2校で行くなら2校とも新築するのか、大きい決断が迫られると思う。この再編が終わった5年後くらいからそれを見越してちゃんと検討して行こうと。その時には皆さんの意見をいただき、タブレットも普通に行き届いて使っていると思われる社会情勢など、まだまだ学校を取り巻く環境が変わることもしっかり見据えなが

ら、一緒にやっていきたいと思う。

参加者 私は、阪谷で小中高と育ち、阪谷で育った思い出が強く、一度県外に出たが、阪谷で子育てしたいと思い阪谷に帰ってきた経緯がある。人数の関係、教育の質を考えれば仕方がないことかも知れないが、この学校が無くなる、中学校が無くなると、ここで育って通学してきた私たちよりは、これからの子どもたちは地域に掛ける思いは薄れていくのではと思う。人口減少は難しい問題だと思うが、どうか子どもたちの目線で、子どもたちの意見もしっかり聴いていただきたい。計画を立てて進めていくのだろうが、そこにこだわらず、都度、柔軟な対応をして欲しい。どうしても数が少ない側が合わせる体制になってしまっているから、分かる部分もあるが、最大限のケアをしていただきたい。

市教委 私も50年前に再編の渦中にいた人間で、その時の気持ちもしっかり腹に置いておきたいと思っている。小山地区も大きい所ではないので愛着もしっかり持っている。お気持ちはよく分かる。大人として責任を持ってこの枠組みを決めなければいけないと思うが、子どもたちの思いや様子をしっかりと見ながら進めていくことを約束したい。準備委員会でも十分に話し合いながら進めていく。

参加者 親としては、子どもたちが過ごしやすい環境を作ってもらえればというのが一番の望みである。皆さんといろいろ考えながら、相談していけたらと思う。

市教委 親の思いは一言一言が重い。そういう思いをしっかり受け止めながらと思う。一昨年度も意見交換会で阪谷地区に来たが、大野市全部では41カ所になった。保育園や地区、小学校も全部回り、呼ばれた団体にも行った。これが終わりではなく、これから進めていくので、しっかりと意見をお聴きしながら丁寧にさせていただく。絞り出すようなお気持ちはよく分かる。今日は校長が来ていないが、前回の時に来ていたので、今思いつかなくても、今後、思いついたことや、十分に言えなかったことは、一番近くの言いやすい校長や園長に話をして欲しい。教育委員会に直接言っていただいても良い。どのようなチャンネルでも良いので、私たちに思いを伝えて欲しい。しっかり私たちも聴く。今日が最後ではない。

④閉会のあいさつ（事務局長）